

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の「ねらい」の提示と1時間を見通した「板書」をもとに、基礎・基本の定着と、「生きてはたらく言葉の力」を身に付ける。 ・教室や廊下の掲示を工夫（毎月変えるものとそうでないものの区別）し、落ち着いた学習に取り組める雰囲気づくりに配慮する。 	中 間 評 価		最 終 評 価	
環境づくり						

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学書くことについては、個人差はあるもののほとんどの児童が抵抗なく書けている。話すことについては、クラスの子が一人でスピーチをすることができる。しかし、物事のあらすじや時系列をただ順を追って話すだけにとどまる児童も少なくない。</p>	<p>学音読に関しては、練習が必要である。また、自分の思ったことや感じたことを交流させる活動では、発言できる児童に限られている。</p> <p>また、経験不足からか、語彙力や表現力が乏しい児童が目立つ。また、日本語教室に通っていない児童でも助詞の間違い（「は」と「わ」、「へ」と「え」）がまだある。</p>	<p>宿題等で毎日音読をする機会を設ける。ペア活動やクラス全員の前での発言やスピーチの回数を増やし、また友達の良い所や自分と違った意見から学ばせる機会も設ける。</p>		
	算数	<p>学学習意欲は高い。足し算についてはほとんどの児童がよくできている。しかしひき算（特に繰り下がり有り）になると、誤解答が増え、計算にかかる時間も大幅にかかるようになるので、練習が必要である。</p>	<p>学文章題が苦手である。日本語教室に通っている児童には非常に難関である。また、答えに単位をつけていなかったり、問題を飛ばしてしまい無回答になってしまったりすることがある。</p>	<p>文章をよく読み、問われていることをしっかり理解するトレーニングをする。また毎週行われているベーシックドリルや宿題、授業の復習などで、苦手な分野に関しての反復練習を行う。</p>		
3	国語	<p>語彙量が少なく、文章や会話での表現力に課題がある。また、考えを文章に起こすことが苦手で、修飾語などの詳しくする言葉を活用することに課題がある。</p>	<p>表記や文章構成を考えることに課題がある。話すこと・聞くことの領域では、要点を捉え会話することが苦手である。</p>	<p>「5分日記」で書く取り組みを取り入れ、自分の考えや思いを書けるようにしていく。基礎的・基本的なことは随時復習しながら授業を進め、4技能の習得をバランスよく行っていく。</p>		
	算数	<p>文章題の意味が分からずに立式や答えが分からない児童がいる。また、かけ算の意味を理解していない児童がおり、九九が定着していない子もいる。</p>	<p>文章題の意味が分からずに立式や答えが分からない児童がいるため、個別に対応して指導を続ける必要がある。また、機械的な作業はできるが、「なぜそうなるのか」がわからないため、根本的な理解につながっていない。</p>	<p>復習を、ベーシックタイム、授業内、家庭学習で行う。文章題は、日本語教室に通っている児童がいるため、授業では、絵や具体物の時間を多く取り入れ、学習を確実に理解できるようにする。保護者とも協力し、日本語で文章題が理解できるように協力してもらい、定着できるようにする。</p>		
4	国語	<p>調文章を読むスピードが遅い上、意図を捉え間違えることが多い。また、文章から読み取ったことを作文で書き表す問題では、課題が多い。</p>	<p>学語彙力が低く、文章の意味を捉え間違えることが見受けられる。自分の考えを、正しく相手に伝えられるように、4技能の習得が課題である。</p>	<p>音読、視写、短作指導中心に学力向上を目指していく。短作指導では型を示して採ることから、丁寧指導していく。また、語彙力を高めるために、日常的に自ら辞書で調べることを取り入れていく。漢字練習の反復練習をさせていく。</p>		
	算数	<p>調学力テストの結果から目標より8.6ポイント下回っている。割り算、時刻、長さ、円の領域に課題が見られる。繰り返し練習させ、計算力強化していく必要がある。</p>	<p>学基礎基本の定着に課題がみられるため、学習が積み重なっていかない。例えば、九九を言うことはできるが、余りのある割り算では、引き算を間違えてしまう傾向がある。</p>	<p>基礎基本の定着のため、反復練習を多く取り入れていく。くり上がりのあるたし算、くり下がりのあるひき算など、ベーシックタイム、宿題を中心に行っていく。フラッシュカードなどで楽しみながら学習できるようにしていく。</p>		
5	国語	<p>調短作文指導では、型を示してまねをすることから学習した結果、多少の向上は見られたが、定着には至っていない。また、一部の児童は、問題の意図を読み違えることが見受けられる。漢字は繰り返し練習させ、評価した結果、向上することができた。</p>	<p>学「話す・聞く」は、みんなの前で発表する力や話をじっくりと聞いて理解する力が身に付いていない。「読む」ことは、児童によって習熟に差がある。「書く」ことは、視写をすることや文章を書くことを苦手としている児童が多い。</p>	<p>授業や朝の会などでスピーチを行い、発表する機会を多く設定する。話の聞き方が定着してないので、学習規律を徹底させる。ノートやワークシートに書く機会を多く設定し、書く習慣を身に付ける。</p>		

	算数	調学力テストの結果から目標値より8.6ポイント下回っている。割り算、時刻、長さ、円の領域に課題がみられる。繰り返し練習させ、計算力を上げていく必要がある。	学割り算、時刻、長さなど、基礎学力の定着に課題がある。学習意欲が低いため、自主的に学ぼうとする姿勢が見られない。	毎時間、授業のめあてを考えさせ、自分の力で解決する機会を与える。「わかる」「できる」体験を多く経験させることで、自主的に学ぶ力を育てる。授業やベーシックタイムで繰り返し学習し、基礎基本の学力の定着を図る。		
6	国語	語彙力が低く、表現力や理解力が自分の考えや思いを文章に書いたり、伝えたりすることに課題がある。 調読解力、文章を書く力に課題が見られる。文章を読むことに時間がかかり、解説なく自分の力だけで理解することに慣れていない。また、文章を決められた時間で分かりやすく書くことについても課題がみられる。	学文章を自分の力で読む力に課題が見られる。自分で文章を読むことにも慣れていない児童が見られるため、説明を加えないと意味が分からなかったり、時間内に読み終わらなかったりする児童が多い。また、自分の考えや感想を作文にすること、正しく文章を書くことにも課題が見られる。	文章を自分の力で読んだり、言葉の意味を正確に理解する課題を出したりしながら語彙力を高めていく。また、考えや思ったことを書いたり、話したりしながら、言葉にすることを増やし、表現力を高めていく。書いた作文は、お互いに読み合い、表現の幅を広げられるように指導していく。また、毎週漢字テストを実施し、漢字の定着をはかる。		
	算数	自分の力で考えて問題を解くことに課題が見られ、基礎基本の学習が定着していない児童も多い。 調学力テストの結果から目標より8.5ポイント下回っており、全体的に算数への苦手意識をもっている子も多い。小数のかけざん割り算、単位量当たりの大きさ、面積の求め方に特に課題がある。	学自分で解決したり、考えたりする力が全体的に低い。また、基礎学力の定着に課題があるため、今までの学習が積み重なっていながったり、求め方を忘れてしまったりしている児童が多く見られる。特に小数のわり算の筆算を正しくできなかったり、作図を正確にかくことができなったりする児童が多く、既習学習の復習も必要。	授業では、課題を自分の力でよく考え、解決する時間を授業の中で十分に確保していく。文章を読んで理解したり、新しい課題に対して既習事項の学習を活用しながら考えていったりするように指導していく。また、授業で学習したことを復習する習慣を身につけさせるように課題を出していく。		
音楽	音楽を好んで楽しく活動する児童が多いが、歌唱においては日本語の歌詞や意味の理解が難しい、器楽においては外国からの転入で経験不足、初めて触れる等の児童が多い。子ども同士はごく自然に教え合いなどしながら学習を進めている。休み時間なども自主的に活動している。	学経験不足や学習進度の遅れがあったり、必要な学習用具がそろわなかったりすることで、学習活動に課題が生じる児童が多い。特に歌唱においては日本語の歌詞や意味の理解が難しい児童が多い。	基礎的・基本的なことは随時復習しながら授業を進めていく。貸出し用の楽器をいくつか用意し、忘れた児童への対応をする。歌詞カードは全てひらがなで、言葉の意味も確認していく。イラストや写真なども用意する。スモールステップのワークシートなどを活用する。			
図工	どの児童も、基本的に創作活動に意欲的であるが、発想や表現に個性や想像力が乏しい子もクラスに数人いる。	学技能的な基礎基本が身につけていない子がクラスに数人いる。また忘れ物が非常に多い。学習のルールが守れない学年もある。	まずは一人ひとりの創造的な技能のレベルを把握した上で、各学年身につけるべき技能を身につけさせる。発問を工夫して、発想を豊かにする。ルールを守れない子については、担任と良く相談して対応にあたる。			
日本語	日本語教室に通う児童のほとんどが、家庭で日本語を使っていない。そのため、児童の積み重ねが見られないことが多い。ただ、学習に対する意欲は高く、努力して課題に取り組んでいる。	学忘れ物などはないが、なかなか積み重ねが見られない。	教材研究を行い、児童が継続して学習に取り組めるような学習形態をとっている。また、少人数指導を生かし、個々の課題に焦点をあて、指導を行っている。			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。